

今年は標準的な問題が多く、取り組みやすかった。標準レベルの問題は、必ず完答できるように、繰り返し頻出問題は解いておこう。ただし、例年であると、分量、計算量共に多いので、難問も含めて幅広く学習し、数学的な洞察力を深く鍛えておこう。

解答方式	時間	大問数	難易度
全て記述形式	150分	5問	標準～やや難

■設問別分析

大問	範囲	出題分野	形式	難易度
1	数学B	ベクトル	ベクトルの関係式から実数解の存在条件を求める問題	標準
2	数学III	微分法	不等式が成立する条件、関数の決定	標準
3	数学III	積分法	積分を利用した級数の整数部分を求める問題	標準
4	数学III	極限	外接する n 個の球からなる図形と極限	やや難
5	数学A 数学B	確率 数列	サイコロと確率漸化式	標準

■最新問題 ポイント解説

大問1

扱う文字が多く、存在条件を的確に行うことが難しい。正確な場合分けを心掛けよう。

大問2

与えられた条件を理解し、言い換えることができれば、普通の微分法の問題である。

大問3

面積比較の、標準的な問題。必ず解けるように練習しておこう。

大問4

問題の設定をしっかりと読もう。

立体の問題であっても、結局は平面図で考えればよい。

大問5

規則性を見抜き、漸化式を立てる標準的な問題。